

アメリカ・ウォーターフロント事情を視察して

(財)リバーフロント整備センター 企画調査部・参事 古市忠史

1. はじめに

水辺空間の価値があたりかたまりのように語られ、その必要性が多くの人々に認められてきている中で、地域のまちづくりにおいても、水辺空間は積極的に位置づけられています。しかしながら、我国のウォーターフロントの方向性については、現在まだ模索の部分が多々あるように思われます。また、河川・海岸の水辺空間整備の実現に向けての方策におきましても、少なからず問題・課題に対処していかなければならない状況にあります。



写真2-1 現在、NORTH CQVEから北部にかけての整備が進んでいる。

当センターでは、このような問題意識の下に、本年10月15日(日)～10月28日(土)の14日間の「アメリカ・ウォーターフロント視察」を主催することとなり、現在視察団の募集を行なっています。

今回視察予定の都市である、ニューヨーク、シカゴ、セントルイス、サンアントニオ、ロスアンゼルス、サンフランシスコの六都市は、私が昨年10月末から11月にかけて、アメリカを事前調査し、それを参考に選定いたしました。

そこで、その事前調査の経験などをもり込んで、ニューヨーク・バッテリーパークシティとシカゴ・レイクフロントについて、水辺と都市のかかわりについて若干述べてみたいと思います。

2. ニューヨーク・バッテリーパークシティ

現在、日本においてもそうであるように、大規模なウォーターフロント開発は、職住接近をめざした複合開発の傾向にあるようです。規模からも質からも、その代表例として、また先駆として評価されている開発が、ニューヨーク市のバッテリーパークシティ開発です。(写真2-1) このバッテリーパークシティは、ロウアーマンハッタンを対象とした商業空間・居住空間混在型のコミュニティーですが、

河畔の散策空間など、そのアメニティー空間の機能は、明確に全ニューヨーク市民を対象として位置づけられています。(写真2-2) そして、注目すべきことは、バッテリーパークシティはけっして水辺から構成が始まった開発ではない、ということです。ニューヨーク市の都市デザインの歴史の変遷には興味深いものがありますが、バッテリーパークシティはその変遷の過程における都市デザイン手法上、事業手法上の諸々の困難に対する経験をいかして、ダウンタウンから都市のデザインを、機能を、そして歴史を慎重に引き込んでおり(写真2-3)、そしてそれらが水際までたどりついたとき、新たに水辺の特性が都市に向かって漂い広がっているように感じられます。ここに、バッテリーパークシティのウォーターフロントの魅力があるように思われます。

現在、ハドソン川対岸で進められているニューポート計画などは、そのバッテリーパークシティの経験を生かした形で展開してゆくものと考えられます。

3. シカゴ・レイクフロント

シカゴのミシガン湖・レイクフロント開発に対する考え方には、たとえば湖岸道路から湖水面にかけての公共空間での私的開発行為が禁止され、近隣の公園・住居地区でも



写真2-2 河畔の散策空間(ESPLANADE)



写真2-3 小雨のALBANY STREETからLOWER MANHATTANを望む眺望路



写真3-1 レイクフロントから湖岸道路とマグニフィセント通りで囲まれた一角を望む

開発行為には調整が必要となっているように、都市のアメニティ空間、レクリエーション空間として、ミシガン湖の環境・景観の保全を最優先しているところに特徴があります。その確固たる姿勢が、シカゴという都市の魅力となっていると思われま

す。湖岸道路と目抜き通りであるマグニフィセント通りに囲まれた一角を眺望する。(写真3-1) 水際線が水平軸をおさえ、建ち並ぶビル群が、湖面のスケールに程良い、のびやかな、リズムカルなスカイラインを形成し、良好な景観が保全されています。

マグニフィセント通りを南に歩くとシカゴ川に出る。シカゴ川河岸にはテラス、レストラン、マリーナ等が整備され、河畔には近代的なビルが建ち並んでいます。(写真3-2) シカゴの新市街地では、ミシガン湖を街の中でも感じることが出来ます。

一方、環状高架電車(Loop)に囲まれたダウンタウン。例えばその南端のバン・パーレン通り、古い建物が解体され、その横では新しいビルが建設されている、といった光景に幾つも出会いました。

シカゴではレイクフロントから都市中心部に向かって、

都市の再構築が明確な形で展開しつつあるといえるでしょう。

4. おわりに

ウォーターフロントという言葉も広く定着した今日、今後日本の水辺の方向といったものを考える必要があるわけですが、是非多くの方がアメリカの水辺に立って、水に触れて、水辺空間を体で感じていただけるよう、10月の視察団に参加していただければ幸いです。



写真3-2 シカゴ川水辺のレストラン